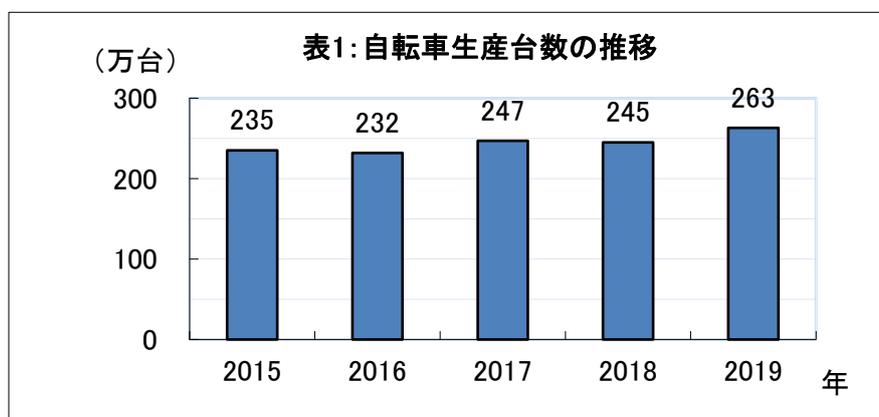


## イタリア自転車市況－2019

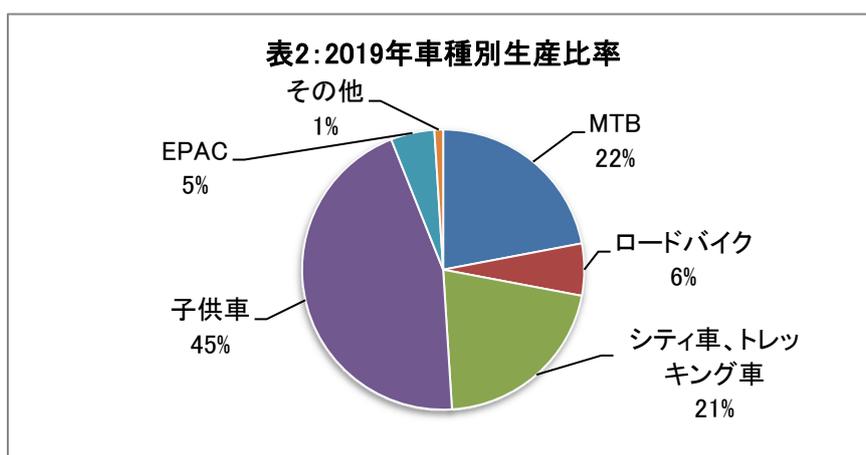
### 1. 生産

イタリア二輪車工業会(ANCMA)によると、電動アシスト自転車(EPAC)を除く一般の自転車(以下、「自転車」と表記)の2019年の生産台数は前年比7.3%増の263万台となり、2014年以来となる250万台の大台を回復した。

車種別の生産台数比率は、子供車(※幼児車含む)が前年同様45%と最大である。ロードバイクとEPACは前年と同じだったが、マウンテンバイク(MTB)は前年より2ポイント減の22%となり、シティ車・トレッキング車は2ポイント増の21%であった。



※上記数値は電動アシスト自転車(EPAC)を除く

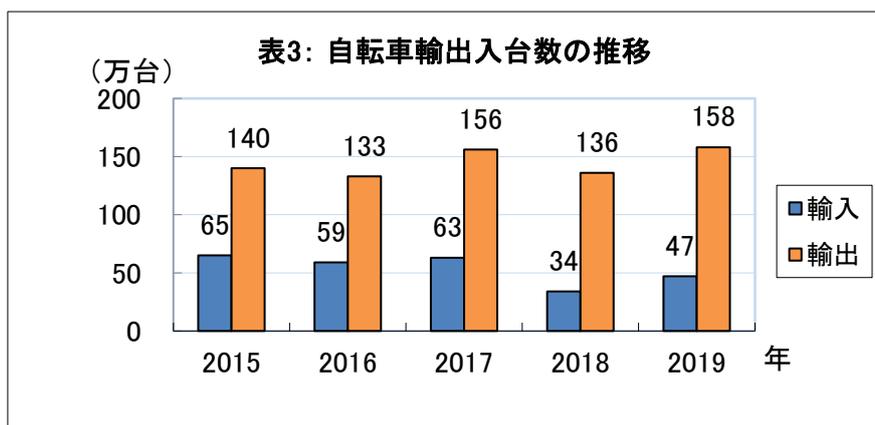


### 2. 輸出入

2019年の自転車輸出台数は前年比16.2%増の158万台となった。国別輸出先の上位5カ国は前年と変わりなかった。フランス向けが75.1万台と依然、最大であるが、台数は前年より減少した。次いでスペイン21.4万台、ドイツ16.6万台、ベルギー11.1万台、ポーランド8.7万台となっている。その他の国々を見ても輸出先の殆どは欧州向けである。

2019年の自転車輸入台数は前年比38.2%増の47万台となり、大幅減となった前年より復調した。国別輸入元は、前年より約7倍増のポルトガルからの輸入が10.1万台で最大となった。次いでスリランカが5.8万台で上位に浮上した。更にルーマニア5.2万台、台湾4.8万台、オランダ4.2万台となった。一方、昨年まで最大の輸入元であった中国は7割減となり上位から姿を消した。輸入の6割強は欧州から、アジア地域からは3割程である。

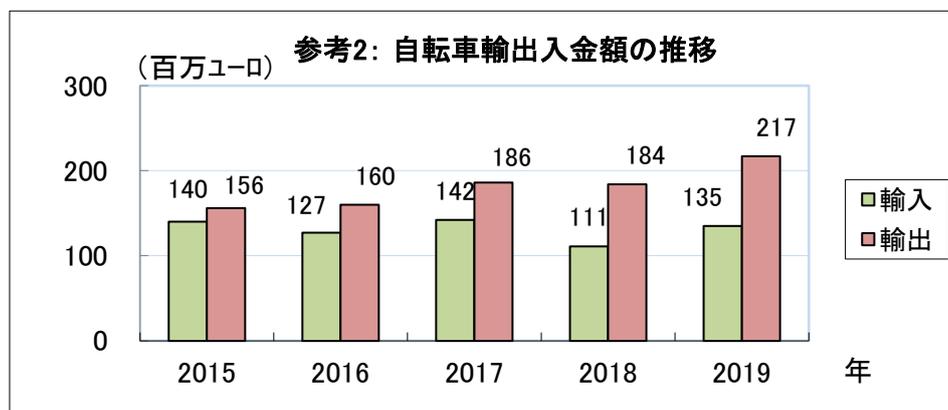
また、2019年の自転車輸出金額は前年比17.9%増の217百万ユーロ(267億円)となり、同輸入金額は同比21.6%増の135百万ユーロ(166億円)であった。輸出入金額は共に2ケタの伸び率をみせた。



※上記数値はEPACを除く

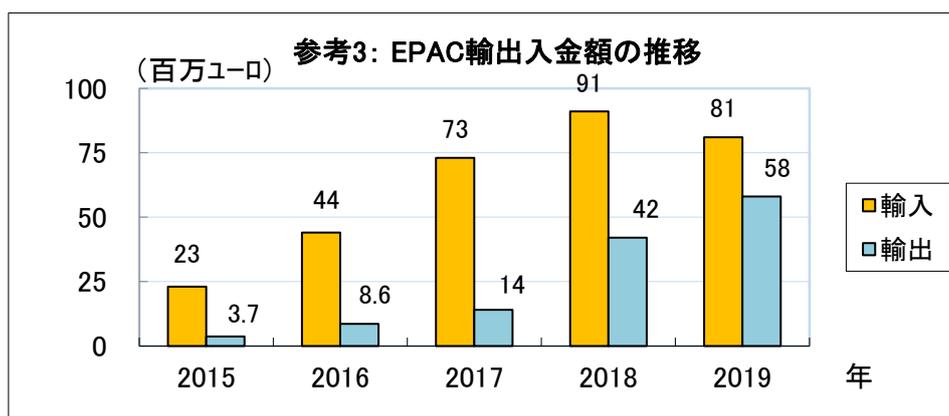
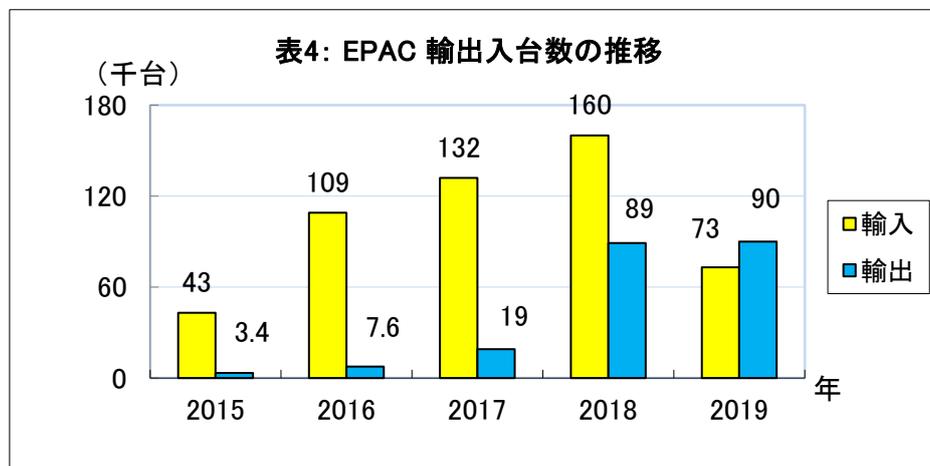
**参考1: 2019年自転車輸出入台数上位5カ国**

順位	輸 入			輸 出		
	国名	台数(万台)	%	国名	台数(万台)	%
1	ポルトガル	10.1	21.5	フランス	75.1	47.7
2	スリランカ	5.8	12.4	スペイン	21.4	13.6
3	ルーマニア	5.2	11.1	ドイツ	16.6	10.6
4	台湾	4.8	10.2	ベルギー	11.1	7
5	オランダ	4.2	9	ポーランド	8.7	5.5
		46.9	100%		157.6	100%



2019年のEPAC輸出台数は前年比1.1%増の90千台とほぼ横ばいであった。同輸入台数は同比54.7%減の73千台となった。輸入の大幅減の要因は2019年1月より中国製電動自転車に賦課されているアンチダンピング税と補助金相殺税の影響が大きいと思われる。

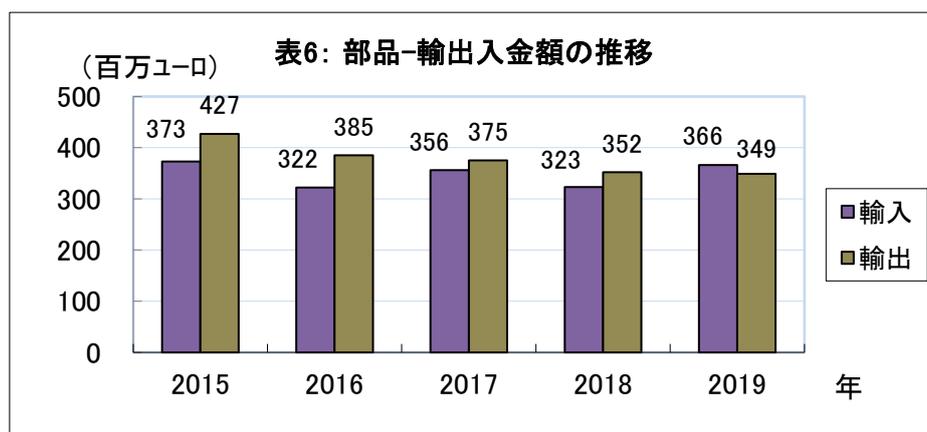
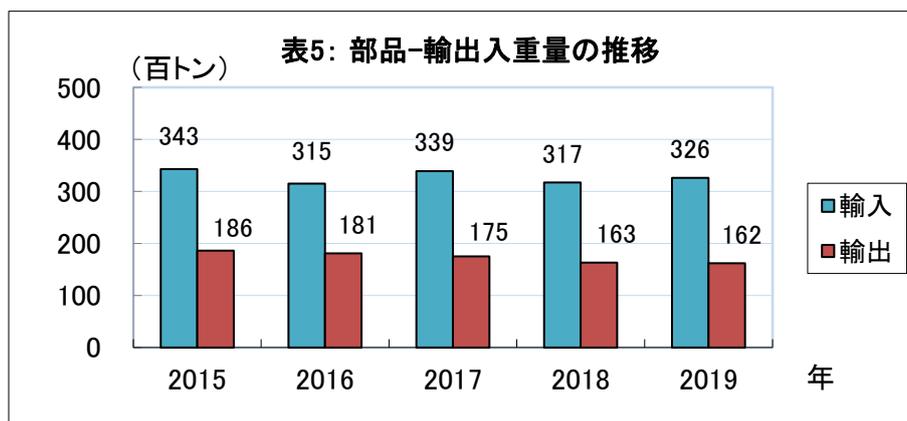
また、EPACの輸出入金額でみると、輸出金額は前年比38.1%増の58百万ユーロ(71億円)と増加したが、輸入金額は同比11%減の81百万ユーロ(100億円)と減少している。



2019年の自転車輸出単価は前年より3ユーロ高い138ユーロ(16,974円)であったが、同輸入単価は41ユーロ安い288ユーロ(35,424円)に下がった。EPAC輸出単価は前年より169ユーロ高い643ユーロ(79,089円)に上がり、同輸入単価は前年より543ユーロ高い1,112ユーロ(136,776円)もの高額となり、前年より倍近い上昇となった。

2019年の自転車部品輸出入について、重量ベースでみると輸出重量は前年比0.6%減の162百トンとほぼ横ばい、輸入重量は同比2.8%増の326百トンと僅かの増加であった。金額ベースでみると輸出金額は前年比0.9%減の349百万ユーロ(430億円)、輸入金額は同比13.3%増の366百万ユーロ(450億円)となった。

更に地域別に金額ベースでみると、輸出の7割強が欧州向け、北米向け1割未満、その他が2割程度である。輸入は欧州から3割、中国3割、台湾2割、日本が1割弱であるが、ベトナムからは1割未満となり比率がやや下がった。

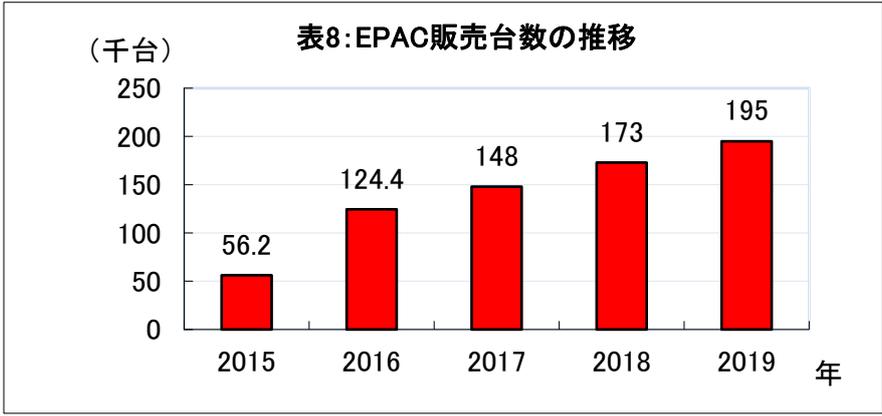


### 3. 販売

2019年の自転車販売台数は前年比7%増の152万台となり、150万台の大台を回復した。ここ数年大幅な伸びをみせるEPAC販売台数は前年比12.7%増の195千台と順調に増加した。かつてイタリア市場のEPACは安価な輸入車が多い時期もあったが、近年は欧州ブランドの高付加価値品を中心としたEPACブームにより、2019年のEPAC販売は堅調であった。EPACは今後も成長が期待されているが、現在の新型コロナウイルス感染拡大が2020年市況にどのような影響を及ぼすか、先行きは不透明である。



※上記数値はEPACを除く



ビアンキのEPAC

以上

統計出所：ANCMA

写真：EUROBIKE2019にて筆者撮影